



青柳園だより

2023年

6月号

文京区立青柳幼稚園

「憧れが、すぐそこに」

主任 樋谷 桃代

先日、隣の青柳小学校の運動会がありました。園庭にいと、ゴールデンウィーク明けから小学生が少しずつ練習している様子が目に入ってきました。はじめは、「何をしているのかな」と全貌がつかめない中、日に日に進歩していく小学生の動きを見て、5歳児ゆり組の子どもたちは「小学生、すごい！」と遊びの合間に目が「くぎづけ」になっていました。運動会が近付いてくると衣装や装飾、手に持つ物などがだんだんそろってきて、4歳児もも組の子どもたちも興味津々。ベンチに座りながら、あるいは三輪車に乗りながら、思わず立ち止まって見入っている様子でした。小学生を見るゆり組ともも組の子どもたちの目は憧れに満ち溢れていて、テンポのよいリズムに合わせて思わず手をたたいたり、一緒に自分なりの踊りでノリノリになって体を動かしたりしていました。そんな園児の姿と、小学生の一所懸命な姿を見ていると、なぜか私の目頭も熱くなりました。小学校が隣にあることが当たり前で、とてもよい距離感で自然に目に入るこの環境がとてもすてきだなと思いました。

運動会の前日、児童鑑賞日に園児が参加しました。まさに、目の前を小学生が駆け抜けていく臨場感たっぷりの特等席に園児観覧席を設定していただいたうえ、小学生の演技の合間のプログラムに園児のかけっこもありました。小学校の先生のスタートの合図で「ようい、どん！」ゴールでは、小学生が作ってくれた折り紙のメダルをプレゼントしてくれました。ちょうど来ていた幼稚園体験（プレ保育）の3歳児ばら組が、手作りの旗を持って応援していると、「一緒に走っちゃおう！」と声をかけられ、園児の流れにのって走りました。プレ保育担当の私としては、ばら組も園の一員であることを実感し、それを受け入れてくれる小学校にとっても嬉しい気持ちになりました。走っている園児の姿を見て「かわいい」と声を掛けてくれる小学生もいました。

幼稚園児がいる環境を当たり前を受け入れてくれる小学校がすぐ近くにあることで、幼児は児童に憧れの気持ちをもったり小学校生活に期待をもったりすることができます。児童にとっても自分の成長に気付き、思いやりの心が育まれ、相互に意義のある交流活動になります。小学校と幼稚園が手を携え、子どもたちの健やかな成長を支える基盤がここにあることを大切にしていきたいと、思いを新たにしています。

